
清瀬どろんこ保育園

令和4（2022）年度

福祉サービス第三者評価結果報告書

株式会社 学研データサービス



1. 東京都第三者評価推進機構提出内容

1	<p>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>1)「にんげん力」を身に付けるために必要な遊び・野外体験を提案実践し”自分で考え、行動する思考”を育みます。 2)10より100の経験を与え、子どもが”したいと思う活動”を安全に行えるように見守り、支援してゆきます。 3)”感じたこと・考えたこと”を言葉でジェスチャーで、表情で、描いて、造って、表現できる子どもを育成します。 4)「0を1にかえる力」を日本中の子ども達につけ、物事を投げ出さずに向き合う若者が社会を支える世の中を創ります。</p>
2	<p>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育現場で求める人物像 現状に満足せず自己の成長を常に意識している人 やって見せ、背中であげてくれる人 より良い保育を目指して創意工夫していける人 ・社会人としての質向上 忙しさや大変さを表情や口調に出さず、いつでも笑顔で心がける。お願いします、ありがとうございます、など仕事中の言葉遣いに注意し、正しい日本語を身に付ける。子ども全体を見て自分が今、何をすれば良いのかを判断して、自ら行動したり、提案する。 <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士としての質向上 子どもの命を預かる重みを自覚し、守らなければいけないことを遵守し、常に平常心で子どもと接する。後輩には自分の知識を教え、育てる気持ちを持ち、一人ひとりがリーダーになるという気持ちで責任を持って保育を行う。

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	裸足保育での健康作りをはじめ、子どもが主体的に遊びに取り組み、心と体の健康につながる保育が実践されています
	内容	「ケガをしない強い体を育てる」を軸に、裸足保育で木登りや雑巾がけ、リズム体操、どろ遊びなどを行っています。園庭の整備や見守り、樹木の整備、築山やロープのアスレチックなど、工夫や安全への対策を行い、子どもの健康作りに取り組んでいます。日課の散歩は子どもの発達や体調を加味し、行き先や公園などでの遊びを子どもが選び主体的に行うことを基本に、安全に実施できるよう準備をしています。朝のリズム体操では体調の観察をしながら、歌も楽しみ金曜日の発表、生活発表会へと活動の連続性も持たせています。
2	タイトル	日課としての畑仕事からさまざまな体験につなげ、栽培での生長や苦勞、労働の大切さと対価、食材の広がりなどを学んでいます
	内容	日課として畑仕事を位置付け、さまざまな学びにつなげています。年間で植え付けと収穫を行い、生育を観察し、収穫、調理して味わうなどしています。その収穫物を保護者に購入してもらい、労働とその対価について考え、収入で保護者にカレーをごちそうし、花火を楽しみました。畑の土作り、水や肥料、虫による被害についても経験しています。シンプル料理で収穫素材を味わい、調理や伝統食作りなどによる食材の変化を実感しています。食への関心を培い、バイキング給食、縁側給食でも食を楽しむ中で、達成感を体験し自主性も養っています。
3	タイトル	異年齢保育では、子どもは発達による違いを受け止め尊重しつつ、かかわり合いの中で成長しています
	内容	園庭や室内をゾーンやコーナーに分け、壁を作らず異年齢保育を行っています。その遊びをしたい子どもがそこに集まり、散歩でも異年齢で手をつなぎます。年上の子どもを見習い、頼ったり、年下の子どもに手助けをしたりする姿があります。縁側給食では職員も交えて自分で配膳し、好きな人と食卓を囲みます。年上の子どもが「それは危ないよ、先生がいるときにしようね」と、年下の子どもにアドバイスする姿もあります。生活習慣や遊び、人のかかわりなどを学び、思いやりや憧れ、責任感、仲間を尊重する意識などが主体的に培われています。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	園の特性に伴う個別業務内容については園会議などで話し合い、スタッフ間で共通の認識を持つように議事録に残していくと良いでしょう
	内容	園のマニュアルは、園業務の根幹をなす「保育品質マニュアル」や、衛生管理、感染症、危機管理、虐待対応、苦情対応等々の各目的についてのマニュアルをまとめた「保育運営マニュアル」などが、閲覧しやすい形でまとめられています。基本的にどろんこ会グループの統一マニュアルとなっています。園の規模や施設構造、立地条件などに伴う個別の対応内容については、必要に応じて検討して決めています。その内容についても全職員に周知徹底して業務の標準化を図るために、文書化し、既存のマニュアルに添えるなどしておく良いでしょう。
2	タイトル	大規模な災害に対しては、保護者や地域の子育て支援の観点から、事業継続計画の充実を期待します
	内容	命にかかわる大規模災害に対しては、「クライシスマニュアル」の中に、発生を想定しての対応が記載されています。その中では、発生後5分、30分、300分、翌日までの時間軸に沿って、職員、保護者、本部と連携した連絡、確認などの対応体制が明示されています。災害遭遇やコロナ禍などにおいては昨今、安全確保に加えて、働く保護者への子育て支援の観点からの事業継続計画も重視されています。園の現行機能のうち継続できるもの、すぐに復旧させるもの、完全復旧までの行程など、保育機能の継続・復旧に関する内容の充実を期待します。
3	タイトル	お迎えでの込み合う時間帯などにおいても、保護者とのコミュニケーションをさらに活性化するための工夫の継続を期待します
	内容	園では、どろんこ会グループの取り組みである、お迎え時での3分間対応を励行し、子どもの様子をできるだけ詳しく伝えるように努めています。ただし込み合う時間帯などについては難しいケースもあり、保護者からは対応を要望する声が一定数寄せられています。これについて園は、担当していないクラスの活動内容の職員間での共有をさらに徹底し、お迎え時にはどの職員も保護者に対応できるように目ざすなど対策を講じています。これについては、例えば口頭伝達と連絡帳との連携の仕方をさらに工夫するなど、今後も粘り強い取り組みを期待します。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	4-1-1	事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる
タイトル①	子どもの日常のけがなどにつながる、身近なリスクの要素発見と防止に努めています	
内容①	園では、広い園庭で子どもたちが伸び伸びと活動しています。ただし広さに加えて遊具が多いこともあって園庭内には死角がでやすく、けがの防止が課題でした。これに対して、安全を見守る「ピンクたすき」と称する役割の職員が配置され、子どもを見守るために自分がどこに立ち、どんな点に配慮すべきかを日々話し合い、検討しています。これに加えて遊具数を最小限にすることも検討、実施し、その結果、園児のけがを大きく減らすことができています。これら要所要所での安全への注意の払い方は、戸外活動においても生かすよう努めています。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-3-2	全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している
タイトル②	持続可能な社会作りにつながる価値観をはぐくむ活動を、積極的に取り入れています	
内容②	「国際理解授業」で環境・貧困問題などを世界的な視野で知る、「金融教育」で畑を耕し収穫物を保護者に販売して、収入の使い道を自分で考えることで労働とその対価であるお金の大切さを知るなどの活動を取り入れ、持続可能な社会形成への価値観をはぐくんでいます。また日常の保育でも、子どもたちに対して、例えば園庭遊びでは遊びを楽しむだけでなく、この園庭環境を次の人たちのために守ろう、といった意識付けに努めています。これらは、どろんこ会グループの子育て理念の「にんげん力」の養成にもつながるものとも捉えて取り組んでいます。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-1	子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている
タイトル③	年齢や障がいの有無など、違いをすべて受け入れ多様性を尊重した保育を進めています	
内容③	異年齢保育と同様に、障がいのある・なしという点でもその区分け意識を持たず、すべてを個性として捉え、子どもたちが互いに思いやったり、頼り合ったり、教え合ったり、時にはぶつかり合ったりして生活し関係性を深めていくインクルーシブ保育を旨としています。支援が必要な子どもへの専門担当者を設定するのではなく、職員全員が個々の子どもの特性や状況を把握しつつ、全体の様子も視野に入れながら子どもたちとかわかっています。現在、目指す方向での成果は得られつつも、さらに密度の濃いかかわりかたを追求しています。	

I 組織マネジメント項目(カテゴリー1～5、7)

No.	共通評価項目 カテゴリー1	
1	リーダーシップと意思決定	
	サブカテゴリー1(1-1)	
	事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている	
	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7/7	
	評価項目1 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)を周知している	
	評点(〇〇)	
	評価	標準項目
	あり	◆1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている
	あり	2. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている
	評価項目2 経営層(運営管理者含む)は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている	
評点(〇〇)		
評価	標準項目	
あり	◆1. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任を職員に伝えている	
あり	2. 経営層は、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けて、自らの役割と責任に基づいて職員が取り組むべき方向性を提示し、リーダーシップを発揮している	
評価項目3 重要な案件について、経営層(運営管理者含む)は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している		
評点(〇〇〇)		
評価	標準項目	
あり	1. 重要な案件の検討や決定の手順があらかじめ決まっている	
あり	◆2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	
あり	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	
カテゴリー1の講評		
公表コメント	理念や目標など基本的な考え方は、多様な機会職員や保護者への浸透を図っています	
	どろんこ会グループ共通の保育理念や保育目標などは、職員業務の基本マニュアルである「保育品質マニュアル」や事業計画、入園のしおりなどに明記されています。職員に対しては毎月の園会議の中で、常にこれらに立ち返りながら、理念・目標に沿った保育ができるように理解を深めています。また、保護者に対しては入園時の園見学や入園説明会において、入園のしおりを用いて説明しています。さらに懇談会などで随時確認するほか、玄関に設置した文書ファイルの中にも組み込んで閲覧できるようにしているなど、浸透に努めています。	
	経営層は理念や目標を踏まえて、自らの役割と職員のとるべき業務姿勢を伝えています	
	園の経営層は、施設長、副施設長、主任です。これら経営層の役割については、人事制度ガイドブックの中に全ての職員の役割とともに明示されています。これを踏まえて、経営層は園運営のための具体的な役割とともに、各現場の職員の声を吸い上げながら、業務のためのより良い環境を追求していく立場であることを伝えています。また、日常の業務についても、子どもの気持ちに寄り添うこと、子どもの声をよく聞くこと、子どもの自主性・主体性を尊重して見守ることなど、子どもとのかかわり方を伝え、園の保育をリードしています。	
非公表コメント	重要な決定事項は、園内での十分な検討と決定内容のていねいな周知に努めています	
	人事や規模の大きな設備投資などの重要な案件については、最終的に本部が決定します。その中で園からの起案による場合は、園会議や種々の会議で検討し、議案としてまとめ、それを本部が検討し承認します。決定事項については、決定までのプロセスを含めて会議で伝えるとともに、その後会議議事録を回覧します。その時必ず押印を行うことで、伝達漏れを防いでいます。保護者に対しては、内容に応じてアプリや文書で伝えるとともに、確実な周知が特に必要な内容はその後も改めて個別に口頭で伝え、質問などへの対応も行っています。	
カテゴリー1の講評補足		

2		カテゴリ-2	
事業所を取り巻く環境の把握・活用及び計画の策定と実行			
サブカテゴリ-1(2-1)			
事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 6/6	
評価項目1		事業所を取り巻く環境について情報を把握・検討し、課題を抽出している	
		評点(000000)	
評価	標準項目		
あり	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	2. 事業所運営に対する職員の意向を把握・検討している		
あり	3. 地域の福祉の現状について情報を収集し、ニーズを把握している		
あり	4. 福祉事業全体の動向(行政や業界などの動き)について情報を収集し、課題やニーズを把握している		
あり	5. 事業所の経営状況を把握・検討している		
あり	6. 把握したニーズ等や検討内容を踏まえ、事業所として対応すべき課題を抽出している		
サブカテゴリ-2(2-2)			
実践的な計画策定に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1		事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画及び単年度計画を策定している	
		評点(000)	
評価	標準項目		
あり	1. 課題をふまえ、事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた中・長期計画を策定している		
あり	2. 中・長期計画をふまえた単年度計画を策定している		
あり	3. 策定している計画に合わせた予算編成を行っている		
評価項目2		着実な計画の実行に取り組んでいる	
		評点(00)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していること(理念・ビジョン、基本方針など)の実現に向けた、計画の推進方法(体制、職員の役割や活動内容など)、目指す目標、達成度合いを測る指標を明示している		
あり	2. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し(半期・月単位など)、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる		

	<p>カテゴリー2の講評</p>
<p>公表コメント</p>	<p>さまざまな機会を通じて子育てや園運営に関する保護者、職員の意向を把握しています</p> <p>毎年の利用者アンケートやアプリの連絡帳、懇談会、個人面談、送迎時のコミュニケーションなどによって保護者の意向を把握しています。昨今は感染症やセキュリティなど子どもの安全面への関心が高くなっています。面談は保護者の希望により随時行うほか、面談月間を設定して集中的に行っています。職員の意向は、年2回の定期的な面談のほか、日常の勤務状況、表情などを観察しつつ、園に対する意見や、業務適性、人間関係の悩みなどを把握しています。把握した内容は必要に応じて経営層で共有・検討し、本人へのフィードバックに努めています。</p>
	<p>自治体や関係機関などから子育て関連の情報を把握し、園の課題を抽出しています</p> <p>施設長は、毎月開かれる市の私立保育園園長会に出席し、市による報告などから子育てに関する福祉の現状を把握しています。また、自治体からのメール、どろんこ会グループ内の勉強会や社内報などから、保育事業界全体の動向を把握しています。その中で、さまざまな子育てニーズに加えて、近年は入園児数の減少による定員割れへの危機感が挙げられています。これに対して園は選ばれる園として、保育の質のさらなる向上、そして独自の保育の強みとともに地域に根ざした園であることのアピールを、課題として捉えています。</p>
	<p>運営本部の方針を踏まえ、中期計画と単年度計画を連動させた事業計画を作成しています</p> <p>事業計画は、運営本部によるミッションを基に、中期計画、単年度計画を作成しています。中期計画は2022年度を起点とした3か年計画で、それを踏まえて単年度計画が組まれています。単年度計画では、保育方針に関する内容は上半期と下半期に分けることで目標が段階的に設定され、年2回行う進捗状況の振り返りに対応しています。さらに、中期計画とそれに対する振り返りも単年度計画の中に示されていて、中期ビジョンに向けての進捗の中で、当年度の計画の位置付けと、それに伴っての重点活動内容がわかりやすい構成になっています。</p>
<p>非公表コメント</p>	<p>カテゴリー2の講評補足</p>

3		カテゴリ-3	
経営における社会的責任			
サブカテゴリ-1(3-1)			
社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 2/2	
評価項目1 社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知し、遵守されるよう取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	◆1. 全職員に対して、社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などを周知し、理解が深まるよう取り組んでいる		
あり	◆2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳を含む)などが遵守されるよう取り組み、定期的に確認している		
サブカテゴリ-2(3-2)			
利用者の権利擁護のために、組織的な取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
あり	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
あり	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
サブカテゴリ-3(3-3)			
地域の福祉に役立つ取り組みを行っている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 透明性を高め、地域との関係づくりに向けて取り組んでいる			
評点(〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 透明性を高めるために、事業所の活動内容を開示するなど開かれた組織となるよう取り組んでいる		
あり	2. ボランティア、実習生及び見学・体験する小・中学生などの見学・実習の受け入れ体制を整備している		
評価項目2 地域の福祉ニーズにもとづき、地域貢献の取り組みをしている			
評点(〇〇〇)			
評価	標準項目		
あり	1. 地域の福祉ニーズにもとづき、事業所の機能や専門性をいかした地域貢献の取り組みをしている		
あり	2. 事業所が地域の一員としての役割を果たすため、地域関係機関のネットワーク(事業者連絡会、施設長会など)に参画している		
あり	3. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働できる体制を整えて、取り組んでいる		

	<p>カテゴリ3の講評</p>
公表コメント	<p>守るべき法や規範、倫理は、マニュアルの周知や細かなチェックで遵守に努めています</p> <p>職員の心得は、保育品質マニュアルや就業規則などに明示され、新人職員は配属の前にとろんこ会グループの研修で学びます。OJTの際のチェックリストにも確認事項として記載されています。また、種々の会議や社内報にて随時確認を行い、全職員の理解と遵守姿勢の浸透に努めています。苦情に対しては、第三者委員を含めた相談先や解決の仕組みを、入園のしおりに記載して入園時に説明しています。園の玄関にも仕組みの閲覧用ファイルやご意見箱を設置し、仕組みの周知とともに、速やかな情報共有と対応に努めています。</p>
	<p>虐待につながる不適切な言動について理解を深め、日々の業務活動を振り返っています</p> <p>虐待や不適切な対応が行われないように、保育品質マニュアルにより言動の心得について周知し、年度初めのキックオフミーティングで子どもの人権について確認しています。年2回「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」に基づき、職員自らの振り返りも行っています。日常で不適切な対応があった場合は、施設長が報告を受け指導します。家庭での虐待には「虐待早期発見リスト」を整備し早期発見に備えています。虐待の疑いが見られた場合は、まず担当課長に報告して対応の指示を受け、必要に応じて関係機関と連携しています。</p>
	<p>地域の子育て支援として、子ども、保護者ともに多様な体験と学びを提供しています</p> <p>地域の子育て支援活動「ちきんえっぐ」を毎月、月曜日から土曜日にかけて行い、「ちきんえっぐだより」やホームページで告知しています。園庭開放や子育て相談、食・自然・創作活動などについて体験し学べるテーマの活動を多様に計画していますが、近年はコロナ禍により制限を受けたり実施できなかったりしたものも多くありました。今年度は、その中で青空保育のように実施が再開できたり、プロの演劇鑑賞を行ったりしましたが、今後も感染の動向に注意を払い、感染予防対策のノウハウ蓄積を生かしながら、活動の実現や再開を目指しています。</p>
非公表コメント	<p>カテゴリ3の講評補足</p>

4		カテゴリ4	
リスクマネジメント		サブカテゴリ1(4-1)	
リスクマネジメントに計画的に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5	
評価項目1 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる		評点(00000)	
評価	標準項目		
あり	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
あり	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
あり	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
あり	◆4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解し対応できるように取り組んでいる		
あり	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
		サブカテゴリ2(4-2)	
事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 4/4	
評価項目1 事業所の情報管理を適切に行い活用できるようにしている		評点(0000)	
評価	標準項目		
あり	◆1. 情報の収集、利用、保管、廃棄について規程・ルールを定め、職員(実習生やボランティアを含む)が理解し遵守するための取り組みを行っている		
あり	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・管理している		
あり	3. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定するほか、情報漏えい防止のための対策をとっている		
あり	4. 事業所で扱っている個人情報については、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえ、利用目的の明示及び開示請求への対応を含む規程・体制を整備している		
カテゴリ4の講評			
公表コメント	リスクに対して、さまざまな観点からマニュアルを整備し、理解を深めています		
	リスクに対しては種類でなく、子どもの命にかかわることを最優先し、災害、事故、感染症、不審者侵入などに対して身近に起こり得る頻度や被害の大きさなどの観点から、防止や発生時の対応などの備えに努めています。そのために整備している主なマニュアルとして、感染症マニュアル、けがや事故、災害などへの対応をまとめた危機管理マニュアル、大規模災害を想定したクライシスマニュアルが挙げられます。これらは、ほかのマニュアルも含めて年度当初から5月までに、職員全員が再読もしくは読み合わせを行い、確認し理解を深めています。		
	リスク対策の実効性を重視し、各種リスクへの対応や訓練、振り返りを行っています		
公表コメント	リスクに対して、日常の防止対策や訓練などをさまざまな形で行っています。例えば見失い・置き去り事故防止のため、戸外活動では人数のダブルチェックを行っています。毎月多様なリスクを想定して行う避難訓練では、必ず振り返りを行いその後に生かしています。事故記録簿、ヒヤリハット報告書、通院に至らないけがのインシデント報告書などを整備し、再発防止への体制も整っています。なお、大規模災害時対応のクライシスマニュアルにより、本部と連携した訓練も行っていますが、関連して事業継続面での計画内容のさらなる充実が期待されます。		
	情報の扱いについては、管理体制、職員のルール遵守、保護者の理解に努めています		
非公表コメント	守秘情報の管理は、紙媒体は鍵付きの書庫で保管し、職員は必要な時に施設長を通して閲覧します。デジタル媒体はアクセスできるパソコンを限定し、さらに情報内容によって職員の階層に応じたアクセス権限を設けています。個人情報を含め守秘情報の扱いについては職員全員から誓約書を取っています。外部からの実習生などに対しても、説明し同意書を受けています。また年2回の情報セキュリティチェックを行うなど、守秘体制を徹底しています。個人情報の使用については、保護者には具体的な内容をアプリで周知・確認し、同意書を受けています。		
	カテゴリ4の講評補足		

5		カテゴリ5	
職員と組織の能力向上			
サブカテゴリ1(5-1)			
事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成・定着に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 12/12	
評価項目1 事業所が目指していることの実現に必要な人材構成にしている			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所が求める人材の確保ができるよう工夫している		
あり	2. 事業所が求める人材、事業所の状況を踏まえ、育成や将来の人材構成を見据えた異動や配置に取り組んでいる		
評価項目2 事業所の求める人材像に基づき人材育成計画を策定している			
評価		標準項目	
あり	◆1. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)が職員に分かりやすく周知されている		
あり	2. 事業所が求める職責または職務内容に応じた長期的な展望(キャリアパス)と連動した事業所の人材育成計画を策定している		
評価項目3 事業所の求める人材像を踏まえた職員の育成に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 勤務形態に関わらず、職員にさまざまな方法で研修等を実施している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの意向や経験等に基づき、個人別の育成(研修)計画を策定している		
あり	◆3. 職員一人ひとりの育成の成果を確認し、個人別の育成(研修)計画へ反映している		
あり	4. 指導を担当する職員に対して、自らの役割を理解してより良い指導ができるよう組織的に支援を行っている		
評価項目4 職員の定着に向け、職員の意欲向上に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価と処遇(賃金、昇進・昇格等)・称賛などを連動させている		
あり	2. 就業状況(勤務時間や休暇取得、職場環境・健康・ストレスなど)を把握し、安心して働き続けられる職場づくりに取り組んでいる		
あり	◆3. 職員の意識を把握し、意欲と働きがいの向上に取り組んでいる		
あり	◆4. 職員間の良好な人間関係構築のための取り組みを行っている		
サブカテゴリ2(5-2)			
組織力の向上に取り組んでいる		サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 3/3	
評価項目1 組織力の向上に向け、組織としての学びとチームワークの促進に取り組んでいる			
評価		標準項目	
あり	◆1. 職員一人ひとりが学んだ研修内容を、レポートや発表等を通じて共有化している		
あり	◆2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに話し合い、サービスの質の向上や業務改善に活かす仕組みを設けている		
あり	3. 目標達成や課題解決に向けて、チームでの活動が効果的に進むよう取り組んでいる		

	<p>カテゴリ5の講評</p>
<p>公表コメント</p>	<p>職員採用は本部人事採用部が行い、園は職員の定着と育成のため意欲向上に努めています</p> <p>職員の採用は本部人事採用部が一括して行い、どろんこ会グループのホームページや人材募集サイトなどを通じて、理念に基づく方針を打ち出して応募を呼びかけています。採用された職員は研修を受けた後、系列園に配属されます。施設長は職員の定着率を高めるために個人面談を重視し、将来展望が持てるアドバイスや、ほめるべきことはほめることを心がけ意欲が持てるように配慮しています。職員の継続や異動などの配置は、9月の次年度意向調査による希望を参考にありますが、後輩への指導力のある人材育成に主眼を置いた配置を行っています。</p>
	<p>明確な人事制度を基盤として、指導や研修、評価が連動して実施されています</p> <p>本部による人事制度として、キャリアステージの等級ごとに資質や人材像、処遇などが明確に設定され、職員は自身の将来展望を踏まえ、研鑽を積める環境が整っています。またそれに沿って、統合人事管理システムを活用して目標設定、振り返り、適切な評価を行う、といった目標管理型の職員育成を実践しています。研修面では、どろんこ会グループの「保育の質を上げる会議」や子育てスキル講座などの勉強会や研修、さらに関連法人が開設したオンライン研修など、必要性や個人の希望に応じて内部研修や外部研修参加にも積極的に取り組んでいます。</p>
	<p>職場環境と意欲向上に配慮しながら、組織としての機動力の強化に努めています</p> <p>職員の休暇の取得や休憩時間の確保、残業低減などに向けたシフト調整やローテーションの工夫などで、働きやすい職場環境作りに努めています。また各種会議や期中、期末、評価フィードバックの面接においては、意見や提案を積極的に吸い上げ反映し、職員の意欲向上にも努めています。研修内容は園会議などで発表し、学びについての共有やディスカッションも行っています。行事においては毎回、内容のブラッシュアップをミッションとしながら、担当者を軸とした職員の協力体制による主体的な運営を尊重して、チーム力の強化を図っています。</p>
<p>非公表コメント</p>	<p>カテゴリ5の講評補足</p>

7	カテゴリ7	
	事業所の重要課題に対する組織的な活動	
	サブカテゴリ1(7-1)	
	事業所の重要課題に対して、目標設定・取り組み・結果の検証・次期の事業活動等への反映を行っている	
	評価項目1 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その1)	
	前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)	
	<p>さまざまな発達段階や一人ひとりの個性など、多様性を尊重した「異年齢保育・インクルーシブ保育」への理解を深め、実践につなげていくことに取り組みました。具体的には、東京パラリンピックの開催年であることもあって、国際パラリンピック委員会公認教材「I'mPOSSIBLE(アイムポッシブル)」を研究し、園児用として紙芝居にアレンジし、多様性の理解と互いに尊重し合う気持ちの学びを取り入れました。また、障がいのある子どもへのかかわり方として新たに、職員同士で模擬しながら学び合いを行い、コミュニケーションの取り方の理解を深め実践につなげました。経過状況の共有と振り返りを行いながら通年において取り組みを進めました。成果として、単独行動がほとんどだった障がいのある子どもが、周囲の子どもと積極的にかかわりを持つようになり、周囲の子どもも、特に意識する様子もなく自然に受け入れ、遊ぶ姿が見られています。それだけでなく、年齢やクラスにも関係なく、日常的にみんなでいっしょに生活する様子がより定着してきました。2022年度事業計画でも、異年齢保育とインクルーシブ保育を通した「多様性の尊重」を明記し、この活動内容を深めています。</p>	
	目標の設定と取り組み	具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った
	取り組みの検証	目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った
	検証結果の反映	次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた
評価項目1で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評		
<p>障がいがある子ども・ない子ども、幼児・乳児が生活、遊び、労働を教え合い、日々暮らしていける環境作りについては、どろんこ会グループの運営理念において大きな要素の一つです。多様性の尊重を基軸とした取り組みとして、園の特徴である異年齢保育については、より深く追求する位置付けとしました。インクルーシブ保育については、障がいのある子どもとのかかわり方について職員が改めて学びを深め、実践していきました。成果として、障がいのある子どもが周囲と積極的に交流を持つようになり、周囲の子どもも自然に受け入れ、時にはぶつかり合いながらも打ち解け合って生活する状況が得られています。異年齢保育との両方を意識して取り組んだことにより、年齢や個々の状況にかかわらず互いに思いやる気持ちをいっそう深めることができ、相乗効果が得られたとも言えるでしょう。このように、子ども同士のかかわり方が目ざしていた形で深められたことは、取り組みの方向性に対する職員の自信につながっています。心の持ち方に関する取り組みとして道のりは続きますが、今後の継続に向けて職員のモチベーションが高まっていることがうかがえます。</p>		
非公表コメント	カテゴリ7評価項目1の講評補足	

<p>評価項目2 事業所の理念・基本方針の実現を図る上での重要課題について、前年度具体的な目標を設定して取り組み、結果を検証して、今年度以降の改善につなげている(その2)</p>	
<p>前年度の重要課題に対する組織的な活動(評価機関によるまとめ)</p>	
<p>次代を担う子どもたちに対し、ESDすなわち持続可能な社会を構築していくための価値観をはぐくむことに取り組みました。これは5歳児対象に行いました。一つは国際理解授業の実施です。ユニセフの講師により、世界のさまざまな国に食料や水が得られずに苦しむ子どもたちがいることを学びました。講師はオンラインですが、子どもたちはアフリカで実際に使われている水がめや蚊帳などに触れ、リアルな感触を得ながら見入り、聞き入っていました。もう一つは、金融リテラシー教育です。具体的には、園の畑での栽培・収穫の活動をさらに進展させて、保護者向けに収穫野菜の販売を行いました。そして、売上金の使い道を自分たちで考え、地域の科学館の入園、おたのしみ会の開催を行いました。この活動を通して、自らの労働によってお金を得るという経験から、お金の価値や労働の尊さを実感するとともに、お金の流通の仕組みに触れることもできました。課題としては、より自然な体験を中心とすることと、下の年齢からじっくり取り組むことが挙げられました。次の段階は4歳児も対象に入れる、耕して自分の畑を作ることから始めるなど、取り組みの幅を広げていく方針です。</p>	
<p>目標の設定と 取り組み</p>	<p>具体的な目標を設定し、その達成に向けて取り組みを行った</p>
<p>取り組みの検証</p>	<p>目標達成に向けた取り組みについて、検証を行った</p>
<p>検証結果の反映</p>	<p>次期の事業活動や事業計画へ、検証結果を反映させた</p>
<p>評価項目2で確認した組織的な活動や評語の選択に関する講評</p>	
<p>国際的な関心事として定着しつつあるSDGsの達成に向けて、園の子どもには必要な価値観をはぐくむことが大切と考えました。そのために、まず国際理解として、子どもが当たり前と思っている現在の生活環境認識に対して、世界に存在する厳しい暮らしの実態を伝え、視野を広げることに照準を当てました。さらに、衣食住に加えて生活基盤を成す要素として、経済の仕組みに触れることにも取り組みました。前者においては、当たり前で得られていると思っていたものの価値を改めて認識するとともに、物や環境を大事にする、食品ロスを防ぐことの大切さなどについて再認識ができました。後者の金融リテラシーについては、物を買うためのお金の認識から、労働を通して生産を行い、販売を通してお金という対価を得て、そのお金を有意義に使う、という仕組みに触れ、お金の価値についての視野も広がりました。これによって子どもに対して、学んだ労働や生産の大切さなどが、前者の国際理解で学んだ内容と深くかかわっていることへの認識も期待できるでしょう。今後においては、全体的なPDCAの中に、さらに細かい振り返りと検証を組み込みながら、活動の継続と進展を期待します。</p>	
<p>カテゴリー7評価項目2の講評補足</p>	
<p>非公表 コメント</p>	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目(カテゴリー6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目	
サブカテゴリー1		
1	サービス情報の提供	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4/4
評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している <p style="text-align: right;">評点(〇〇〇〇)</p>		
	評価	標準項目
	あり	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している
	あり	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている
	あり	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している
	あり	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している
サブカテゴリー1の講評		
ホームページでどろんこ会グループの姿勢や園の様子をわかりやすく伝えています ホームページでどろんこ会グループの理念、方針などや園の様子を案内しています。言語を選択でき、中文版と英語版もあります。「どろんこの子育て」には保育への基本的姿勢や身につく6つの力、1日の生活の様子、プログラムなど写真も活用し、伝わりやすい工夫がされています。当園のページには園の基本情報や年間スケジュール、当月の園だより、献立表、食育だより、保健だより、ちきんえっぐだより(地域支援のたより)、各種書類(ダウンロード可)を見ることができます。「お問い合わせ」は電話とメール対応で案内しています。		
公表コメント	市や関係機関への情報提供や地域への広報に努めています 市のホームページには保育園の基本情報や空き情報、各園のホームページへのリンクが記載されています。また近隣の発達支援センターや図書館、保育園、子育て支援センターなどにイベントのチラシを置かせてもらい、広報に努めています。地域向けの広報紙「ちきんえっぐだより」では園庭開放のほか、公園などでの青空保育の予定も伝え、園児とともに過ごす保育体験を通して園を知ってもらう機会を設けています。立地が病院の奥にあり目立ちにくいいため、園見学や青空保育の折に公園で誘いかけるなどしており、さらに工夫したいと考えています。	
	見学には柔軟に対応し、園の特徴を感じ取ってもらえるようにしています 見学の申し込みは電話やホームページから受け付け、希望日時に沿って個別対応をしています。入園のしおりを基に口頭で説明し、質問を受けています。特に希望時間がなければ、子どもの主活動を見てもらい、園の特徴を感じ取ってもらいたいと考えています。毎日の畑仕事と散歩では、園庭の畑や園の横にある畑と公園に案内しています。見学者には主任や施設長などが対応しています。突然の来園でも対応できるよう準備していますが、園はさらにどの職員でもいねいに対応できるように体制を整えていきたいと考えています。	
非公表コメント	サブカテゴリー1の講評補足	

		サブカテゴリー2	
2	サービスの開始・終了時の対応	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 6/6	
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている	評点(〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	
あり	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
あり	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている			評点(〇〇〇)
評価	標準項目		
あり	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
あり	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
あり	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリー2の講評			
公表コメント	入園にあたり、子どもの情報収集と保護者の承諾確認をていねいに行っています		
	入園決定後には必要書類を送付し、入園前面談を行います。入園前健診、児童票、生育歴、子どもの姿など保育に必要な情報を把握します。契約書と重要事項説明書に沿って説明をし、保護者に確認のチェック、署名捺印を受けています。特に利用料金、延長保育予約のルールについて誤解のないようていねいな説明を心がけ、入園後も必要に応じてつど、確認をしています。子どもの個人情報の取り扱いについては、承諾書にて同意をもらっています。また、連絡用アプリで登降園の打刻や園との連絡、おたより、活動の様子を見ることなどの案内をしています。		
	子どもの情報を記録し共有して、安全で統一のとれた保育に努めています		
非公表コメント	保護者の意向、子どもの個性や配慮すべき点、アレルギーの有無など面談票に詳しく記載し、会議等で職員に周知し情報共有を図っています。さらに専用アプリ内の園児台帳に記載し、全職員がいつでも確認できるようにしています。アレルギーのある子どもについては除去食申請書、生活管理指導票の提出、及び調理スタッフ、担任保育士、施設長などで保護者と個人面談を行い、アレルギー除去開始前面談票を作成して、園会議や昼礼、園内のチャットで共有しています。就学前には小学校に、必要な情報とともに保護者が特に希望する内容も提供しています。		
	利用開始時には子どもも保護者も安心できるよう、配慮した対応を心がけています		
	利用開始時にはできるだけ同じ保育士が寄り添い、子どもが安心できるようにし、少しずつほかの職員もかかわるようにしています。スキンシップをしながらしだいに見守る保育にしていきます。子どもの様子を職員間で密に共有し、送迎時に保護者に様子を伝えています。アプリの連絡帳やタイムラインでの情報提供、及び送迎時に保護者の話を傾聴し家庭状況の把握に努め、子どもに合わせた対応を探っています。慣れ保育は希望があれば対応し、必要な様子の子どもには勧めています。0、1歳児では希望が多く、短時間保育から始め2週間程度行っています。		
サブカテゴリー2の講評補足			

3 個別状況の記録と計画策定

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12/12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している 評点(〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している
あり	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している
あり	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている

評価項目2
全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している 評点(〇〇〇〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している
あり	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている
あり	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている
あり	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している
あり	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直しをしている

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある
あり	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している 評点(〇〇)

評価	標準項目
あり	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している
あり	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している

サブカテゴリー3の講評

子どもの記録を統一書式に記載し、子どもの全体について捉えています
子ども一人ひとりの記録を情報共有アプリの書式に記入し、職員は常に確認できるようにしています。毎月の身体測定、個別記録、個別計画、個別省察(一般指標を目安に成長をチェック)などを記載しています。保護者の意向や家庭環境も記録しています。毎月の末に個人記録を記入することで振り返りの機会となり、次月の保育に反映させています。子どもの成長の経過記録として捉えていますが、特に成果があった点についてはエピソード記録を作成し、保育の質を上げる会議でテーマとして職員間で共有し、それぞれの保育場面の参考にしています。

理念、方針、各指導計画の連動性、整合性に留意し、子どもの姿を反映させています
どろんこ会グループより理念や事業計画の内容を盛り込んだ保育の内容に関する全体的な計画を示され、園の事業計画などをこれに組み込み、園としての全体的な計画を作成します。年間指導計画は施設長と主任が中心にリーダーと連携しながら作成します。行事についてはマンネリにならないよう、常に新鮮味のある内容の計画立案に努めています。月間指導計画、週間指導計画では担当が子どもの発達を捉えながら作成し、乳児会議、幼児会議で翌月の予定もすり合わせ、日案で子どものありたい姿を想定しながら具体的な活動につなげています。

子どもの情報を全職員が把握し、保育に取り組めるよう綿密な記録や伝達に努めています
異年齢保育では子ども一人ひとりの姿を職員全員が把握する必要があるため、情報共有アプリにより指導計画や個別記録の内容をきめ細かく確認し、園会議やケース会議でも共有しています。また日々の活動は、子どもにやりたいことや行きたい場所などを聞いて、活動内容が子どもの希望に沿い安全に実施できるよう職員を配置し、園内のチャットにも掲載して常に共有しています。シッターノート兼お迎え伝達ノートには登園時の保護者からの情報や降園時に伝えたいことを記載し共有、伝達確認サインをして漏れがないように努めています。

サブカテゴリー3の講評補足

公表コメント

非公表コメント

サブカテゴリ5	
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重 <div style="text-align: right;">サブカテゴリ毎の標準項目実施状況 5/5</div>
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
評価	標準項目
あり	1. 子どもに関する情報(事項)を外部とやりとりする必要がある場合には、保護者の同意を得るようにしている
あり	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している <div style="text-align: right;">評点(〇〇〇)</div>	
評価	標準項目
あり	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している
あり	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている
あり	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている
サブカテゴリ5の講評	
子どものプライバシーに留意し、職員自身が子どもに人権を尊重する姿勢を見せています 入園時に個人情報の取り扱いの方針を確認し、外部に子どもの情報を伝える必要がある場合は本部と相談のうえ、保護者に同意を得ています。例えば写真掲載時には、名札を表に示すか裏にするかの意向を確認し同意書を受けています。また子どもの羞恥心に配慮し、排泄はほかの子どもから見えないようにおむつだけで歩かない、着替えの手順の配慮、などに留意しています。3歳児から性教育を行い性差やプライベートゾーン、命の大切さ、多様性の尊重を伝えています。さらに子どもに伝えるだけでなく職員自身も率先して言動への配慮を心がけています。	
公表コメント	子ども一人ひとりの主体性を重視する中で、人権を尊重した保育を心がけています 保育の中で子どもの名前には敬称を付けて声かけをしています。活動への参加は本人の意思を尊重するようにしています。公園に行く際も子どもがしたいこと、それに合う公園選びなどを子どもと話し合うなど興味を示したことを尊重し活動に対しては安全を確保し、見守っています。活動の補助も子どもからの要請を受けるようにし、先取りせず主体性をはぐくんでいます。さらに年2回「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を活用し、子どもの人権を考えたり自身の保育を振り返ったりする機会にし子ども一人ひとりを尊重した保育を心がけています。
	年齢や障がいの有無によらない、個性を尊重した保育への職員の意識付けに努めています 0歳から芽生える意思を尊重しながら、職員と子どもとで小さな約束と実行を積み重ねることによって子どもの自立性を高めていけるようにしています。異年齢保育、インクルーシブ保育を軸に、子どもの支えを必要とするタイミングを注意深く計りながら平等に対応できるようにし、人権の尊重を実践するよう努めています。年2回の「児童・保護者の人権に関するチェックリスト」を通して子どもの権利や虐待、保護者支援などへの意識付けをしています。また家庭環境なども把握し、保護者に必要な支援や関係機関との連携を行っています。
	サブカテゴリ5の講評補足
非公表コメント	

サブカテゴリー6	
6	事業所業務の標準化 <div style="text-align: right;">サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5/5</div>
評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
評価	標準項目
あり	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている
あり	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている
あり	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている <div style="text-align: right;">評点(〇〇)</div>	
評価	標準項目
あり	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている
あり	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている
サブカテゴリー6の講評	
どろんこ会グループの統一マニュアルにより、理念に沿った保育活動が行われています どろんこ会グループ統一の「保育運営マニュアル」と「保育品質マニュアル」で、日々の保育の基本や活動ノウハウを確認できるようにしています。保育運営マニュアルは事務室に配備し、保育品質マニュアルは毎年改訂版が全職員に配付され、各活動やリスク対策など、グループで共通した取り組み手順に沿いつつ、各園の特性に応じた対応が実践されています。これらについては、内部監査室による内部監査でマニュアルに沿った実践がなされているかどうかを確認され、どろんこ会グループの理念のもと、統制のとれた保育サービスの実施が行われています。	
マニュアル内容は保育室内掲示による日常的な活用と、実施のチェックに努めています 園では保育品質マニュアルのけが、病気、衛生管理などのフローチャートは保育室内に掲示し、すぐに確認できるようにしています。さらに対応手順として共有が必要な事項については随時会議などで打ち合わせており、必要に応じて子どもにも伝え子どもが必要性を理解して行動できるようにしています。事故防止や設備点検、清掃、乳幼児突然死症候群防止の睡眠時チェックなどについてチェックリストを整備し、漏れがないように確認しています。コロナ禍対策では物品や玩具の消毒と30分ごとの室内換気も記録し、実施の確認を行っています。	
マニュアルは保護者や職員の意見を反映させ、毎年更新し実情に合わせています 毎年9月に実施している利用者アンケートでの保護者の意見や、3月に全職員で行う次年度に向けての策定会議、及び日常の保育の中でマニュアルに改善が必要と思われる事項があった場合、それらを基に保育運営マニュアルと保育品質マニュアルの見直しを行っています。改善案がある場合には規定のルールで本部に伝え、毎年各施設長で協議し、必要があれば改訂を行い、職員に配付されています。全職員が手元で日ごろ確認していますが、業務上の対応で迷った際には運営本部へ相談して、必要に応じて内部監査室にも質問し疑問を残さないようにしています。	
サブカテゴリー6の講評補足	
公表コメント	
非公表コメント	

Ⅲ サービスの実施(カテゴリー6-4)

		サブカテゴリー4	
サービスの実施		サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 35/35	
1	評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	
	あり	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	
	あり	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	
	あり	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	
	あり	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	
	あり	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	
評価項目1の講評			
公表コメント	<p>月案作成時の振り返りや個別記録の確認などで、子どもの状態を綿密に把握しています</p> <p>子ども一人ひとりの発達や状況については、月案作成時に振り返り確認しています。また、個別記録の項目に沿っての確認も行い、主に園会議でのクラス報告、乳児会議と幼児会議での個別報告で共有しています。これは、子どもの発達についての情報だけでなく意見交換もできるため、担任の安心感にもつながっています。異年齢保育及びインクルーシブ保育による多様な個性の交流の中で、活動時に全職員が子ども一人ひとりを観察・理解し、無理なくほかの子どもとかかわり成長していけるよう、対応の仕方、行事や活動の選択肢を工夫しています。</p>		
	<p>子どもが自分で遊びを選んだり興味関心を持てたりできる環境を工夫しています</p> <p>乳児棟と幼児棟に分かれています。自由に行き来ができ、各棟では年齢別の仕切りをせず、静と動のゾーンに分け、子どもの希望を聞きながら遊びを設定しています。園庭では築山や手作りのアスレチック、どろんこ遊び、たき火、プールなど思いきり身体を動かし自然に触れられる環境作りを工夫しています。また戸外の散歩や系列園での動物の世話、地域とのかかわりなど多くの体験を重視し設定しています。子どもは自分で遊びを選び、異年齢で協力しながら遊んでいます。施設長は、環境設定にはさらに変化をつける工夫をしていきたいと考えています。</p>		
	<p>5歳児の就学への期待に沿って、就学後への円滑なつながりを準備しています</p> <p>就学に向けて、「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」について小学校教師との意見交換や共有を図り、5歳児の小学校見学や小学生との交流の機会を持ったり、3～5歳児に担任のびのび指導(学習教材テキストや、どんぐりなどで数に馴染むなど)、音楽指導、体操指導を取り入れたりしています。昨年度はコロナ禍につき、1校の小学校教員による就学に向けての心構えについて出張講座を設けるに留まりましたが、今年度は3校との連携を実施しました。生活習慣でも小学校に馴染めるように配慮し、保護者にも小学1年生の姿を伝えています。</p>		
非公表コメント	評価項目1の講評補足		

2	評価項目2 子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに 配慮した保育を行っている	評点(〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	
	あり	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	
	あり	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	
	あり	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	
評価項目2の講評			
公表 コメント	一人ひとりの体調などを把握しながら、生活リズムに配慮しています		
	登園時には視診や検温、保護者からの家庭での様子や前日からの体調の変化などの聞き取りで子どもの状態を把握し、シッターノート兼お迎え伝達ノートに記載し、園内のチャットでも職員間で共有しています。体調が思わしくない子どもの活動を室内活動に変更して観察し、視診などで気になった点も記録・確認をしています。保護者から睡眠について要望があれば対応するとともに、午前寝や午睡の無理強いをしない、あるいは無理に起こさないなど個別にも対応しています。5歳児は午睡はありませんが、子どもの様子に合わせた対応をしています。		
	生活習慣は年上の子どもを手本に、子どもの発達に合わせて意欲を大切にしています		
	自分で食べることを大切に0歳児は手づかみ食べを存分にし、1歳児の隣にセッティングして見て学ぶ環境を作っています。1歳児から食事を受け取り好きな席で食べます。2歳児からのバイキング形式では自分が食べられる量を知り、異年齢で席に着いて年上の子どもや職員を手本に食具も選択できるよう用意し、食事マナーなどを身につけています。トイレトレーニングは発達を見ながら行い、3歳児からの銭湯参加は入浴意欲のきっかけになっています。着脱なども褒めながら自分でしようと促し、生活習慣が子どものペースで身につくよう配慮しています。		
非 公表 コメント	1日の様子は保護者にアプリの連絡帳や画像で、また降園時に口頭で伝えています		
	降園時には、シッターノート兼お迎え伝達ノートの記録から担当者が保護者に伝え、担任からはアプリの連絡帳で必要事項や活動の様子を伝えています。日中の子どもの訴えも良く聞き、表面の言葉だけでなく背景にも注意を払っています。朝の聞き取り後の経過やけが、気になることで担任から直接話したい場合は、降園時に合わせて時間を作り保護者に伝えています。3歳児からはそれまでのように連絡帳に記載せず、活動の写真などグループでの行動を伝えています。子ども自身からその日の出来事を、保護者に話せる力をつけることを目指しています。		
評価項目2の講評補足			

	3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している	評点(〇〇〇〇〇〇)	
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
	あり	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
	あり	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
	あり	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
	あり	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
	あり	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評			
公表コメント	好きな遊びを選んで、子どもが異年齢同士で遊び込める空間を作り、見守っています		
	静と動の空間を意識し、各遊びのゾーンやコーナーを作り年齢や障がいの有無を超えて集い、クラスごとの仕切りはなく好きな遊びを選んで遊べる環境を整えています。コーナー仕切りの棚などは低く全体を見渡せ、職員の目が届くようにしています。子どもほかのコーナーの様子を知り、興味を広げています。玩具や絵本はその時点の子どもの様子を見ながら選定し、小さい子どもに適さない玩具をそのコーナーに置かないなど安全面でも配慮しています。図鑑も設置し、見つけた虫などを自分たちで調べて、年下の子どもに教えている姿などが見られます。		
	子どもが主体的に行動し、生活リズムを整えられるように環境を作っています		
	毎朝リズム体操、座禅、雑巾がけを行い、1日を過ごす体の準備をしています。毎日の散歩は、異年齢で歩きます。前日にどの公園で何をしたいか聞くことで主体性をはぐくめるようにし、安全に実施できるよう職員を配置します。散歩や午前活動から帰って給食室の前を通り、食への意欲が刺激され昼食に向かう、という流れになる環境を作っています。体をしっかり動かし、意欲的に食べ、ぐっすり眠るリズムを大切にしています。遠足は年齢に適した距離、子どもの興味を発展させ、どんな力が養えるかなどを見極めて行き先を決めています。		
非公表コメント	「水、火、土」に関する活動を多く取り入れ、豊かな感性を育て、ルールを学んでいます		
	戸外活動では畑仕事、散歩や公園などで虫や植物など自然とかわり四季を感じています。どろ遊びやプール遊び、焚き火なども取り入れ、どんぐりで数を考えたり、製作したりしています。また遊びの中でルールを学び、年下の子どもに対して教えたり守ってあげたりする、譲り合う、友だちとのぶつかり合いは子ども同士で乗り越えるなど、自分で心の折り合いがつけられるように職員は見守っています。職員は目印の木となり子どもが助けを求められるようにしています。さらに感触遊びやボディペインティングなどでも、豊かな体験や表現を楽しんでいます。		
評価項目3の講評補足			

4	評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
	あり	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
	あり	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評			
公表 コメント	行事は子どもの希望を聞き取り、一人ひとりの発達に合わせた工夫をしています 年間行事、体験活動を決める際には毎年「子どもたちにとって何が必要か」を考え、経験させたい活動を取り入れています。行事の実施にあたっては子どもの希望を聞き取り、子ども一人ひとりの発達に合わせた工夫をしています。また年齢や発達の違い、障がいの有無を超えて行事でもどうしたらいっしょにできるかを子ども中心にみんなで考え話し合います。子どもから提案したり子ども同士で思いやり、さらに、互いにまねをして感じ取ったり関心を引き出したりして、いっしょに成し遂げた思いが連帯感をはぐくむことにもつながっています。		
	日常の活動を保護者に披露し、子どもは協力しながら作り上げる達成感を得ています 運動会、生活発表会では、毎日の活動を生かした雑巾がけリレーなど、日常の成果を保護者に伝えています。玉入れでは5歳児がかごを背負い年下の子どもに入れやすいようにしている姿もありました。日課のリズム体操は毎週金曜日にピアノに合わせて5歳児から順に園内披露していますが、2歳児は運動会で保護者にも見てもらいました。リレーではグループで作戦を練り、子ども同士で走者順などを話し合っていました。生活発表会では音楽指導の歌や楽器など一人ひとりの子どもが得意なものを発表し、成果を披露できる喜びにつながっています。		
	自然や地域とのつながりなどを取り入れた活動により、体験や学びの幅を広げています 3～5歳児は月1回バスで銭湯に行き、みんなとの入浴で関係を深めています。商店街ツアーでは地域とのつながりも感じます。バス遠足や長距離徒歩遠足などにお弁当を持ち出かけ、日常の散歩とは違った学びを得ています。園庭での焚き火や焚き火での調理も温かく季節を感じます。毎日の畑仕事は、季節により植え付け、収穫、調理など関連付けて行い、達成感を体験しています。これらは、コロナ禍の感染状況を見ながら今年度後半より少しずつ再開していますが、ほかにどろんこ祭りなど保護者の協力も得ての行事などについても再開を期しています。		
非公表 コメント	評価項目4の講評補足		

5	評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
	あり	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	
評価項目5の講評			
公表 コメント	早朝の保育では、日中の活動に向けて体のリズムを整え、体調把握に留意しています 朝7時から4、5人が登園し、順次増えてきます。健康チェックはしっかり行っていますが、特に免疫の少ない乳児には留意し、子どもの状態により休める配慮もしています。静の活動として机や椅子を出し粘土やお絵かき、動の活動としてマットを敷いて鉄棒などを準備しています。8時15分からはリズム体操や歌を、8時半から子どもは乳児棟、幼児棟に分かれ、座禅と雑巾がけで身体が目覚めやリズムを作っています。リズム体操などは子どもの状態の観察にもなっています。月間指導計画に長時間にわたる保育の欄を設け配慮を意識しています。		
	日中の活動時とは異なる玩具を用意するなど、変化を持たせ楽しめるようにしています 午睡後も園庭で遊び日没を目安に幼児棟に入ります。17～18時ごろの降園が多く、登降園ともに園庭で対応しています。早朝や延長保育時には日中に出ていない玩具や子どもが一人で遊べるパズル、紐通しなどで遊びに飽きが来ないように配慮しています。終日異年齢保育で登園から降園まで状況が変わらず過ごしています。0歳児やかみつき、ひっかき期の子どもの職員が目を配れる配置にし留意しています。言葉かけや気になる事、疲労などに配慮し、日中の保育と合わせて保護者に伝えます。19時に夕食、20時に延長保育終了になります。		
非公表 コメント	評価項目5の講評補足		

6	評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
	あり	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
	あり	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
	あり	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	
評価項目6の講評			
公表コメント	楽しく安全な給食を通して、自主性も養う機会にしています		
	給食は幼児棟と乳児棟に分かれ、バイキング形式で自分で食べられる量を盛り付けます。縁側給食で職員もかかわり、その日にいっしょに食べたい人と楽しく食べています。午前活動の同じグループで食べることも多く、午前活動も自分で満足したら切り上げて食事に向かい、食べ始めも終わりも自分のタイミングで行っています。職員は子どもの様子を見ながら完食できるよう配慮しています。食物アレルギーのある子どもには色が異なり顔写真を貼ったトレーを使い、食卓を分け、複数人チェック体制で職員が見守りをしています。		
	食材を知り、調理などでの変化や資源の循環を通して食への関心につなげています		
	毎日畑仕事を行い、年間で植え付けから収穫まで、生育を観察し、調理して味わうなどしています。畑の土作り、水や肥料、虫との戦いも実感しています。芋、夏野菜や冬野菜などの収穫では取れたてをシンプルに調理して素材を味わい、葉っぱのふりかけ、干し野菜、焼き火で焼き芋などを行っています。うどん作りや梅ジュース作り、みそ作りなどで食材の変化、残渣コンポストで資源の循環を知り、動物や魚などの命への感謝とともに食への関心につなげています。行事食で由来を知ったり、特別メニューで季節感を味わったり、多くの体験をしています。		
非公表コメント	畑仕事は、食の関心や楽しみからさらに幅広い学びにも発展させています		
	畑仕事から収穫し、その収穫物を保護者に購入してもらうことで、子どもが労働の意義とその対価について考えることに取り組んでいます。前年度には5歳児対象でしたが、今年度は4歳児も対象に含めて生活に必要なお金の持つ意味や価値、収穫物の評価や得た収入を何に使うかを考えました。今回は夏まつり用に花火とカレーの材料を買い、保護者にカレーを作ってごちそうし花火をいっしょに楽しみました。畑で育つ命と労働があつてのお金の存在、それを使って相手に喜んでもらえ、自分も喜びを感じた事など、活動をリンクさせながら取り組んでいます。		
評価項目6の講評補足			

7	評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
	あり	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
	あり	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評			
公表コメント	子ども自身が進んで体を守れるような環境作りと保育を行っています		
	保育計画は、各年齢の発達の様子を鑑み作成しています。生活リズムを整え、体の仕組みを知り、体力作りなどを通して子ども自ら健康増進を図るようにしています。保健指導では早寝早起き、朝ご飯を食べる、歯を磨く、体の仕組みや消化と吸収とうんちの話、3歳児からの性教育や体と命の話などを行っています。活動の中で園庭の築山や長距離散歩などを取り入れて体作りをしています。身体測定、内科健診、歯科健診や歯磨き指導などを行うほか、新型コロナウイルス対策での手洗い、うがいの徹底やハザードマップの点検、改善を行っています。		
	アレルギーや感染症など医療面の対応では、保護者とも連携し安全に努めています		
非公表コメント	アレルギーへの対応には保護者を通じてかかりつけ医と連携し、障がいのある子どもにはどろんこ会グループ発達支援事業部や子育て支援センターからのアドバイスを受けています。アナフィラキシーに対する補助治療剤の扱いのトレーニングを行いAED(自動体外式除細動器)も研修で習得しています。乳幼児突然死症候群防止では睡眠時の呼吸や体位、布団内の状態確認など観察、記録し安全を図っています。感染症に関する情報は毎月の保健だよりや連絡用アプリで伝えています。保護者会では看護師による感染症予防についてのアドバイスをしています。		
	「ケガをしない、強い体を育てる」取り組みをしています		
裸足保育・草履保育を行っており、園庭では裸足か草履ばきです。足指で地面を捉える力を育て、運動感覚を養っています。土踏まずを形成し、立つ、走る、跳ぶ、飛び降りる、よじ登る、横や後ろに動く、などの動きが向上します。雑巾がけやリズム体操で徒手力や身体機能の発達を促しています。また薄着で外遊びをし、寒さに強い身体作りをしています。毎月保健だよりを発行し、近年の体力低下についての情報を伝えたり、体力作りへの保護者の理解を促したり、季節的な注意、対処などを伝えたりして、園と家庭の連携で子どもの健康を支えています。			
評価項目7の講評補足			

8	評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
	あり	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
	あり	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
	あり	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
	あり	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評			
公表コメント	保護者が安心して就労や子育てができるように配慮しています		
	保護者の就労状況や家庭状況は、個人面談や日常のコミュニケーションで把握するようにしています。急な残業などでも規定の閉園時間20時までは保育対応し、安心して仕事に向かえるようにしています。19時から夕食になりますが、申し込んでいない子どもには場所を分けて遊べるよう配慮しています。アプリの連絡帳の機能で、保護者は保育の予約や園で過ごす子どもの毎日の活動画像を見たり、行事の画像を購入したりすることもできます。登園時に気がかりだった子どもの様子が、園での画像を見られることで、保護者の安心につながっています。		
	保護者同士の交流や園からの情報が子育てに役立つよう取り組んでいます		
	保護者同士の交流の場として年2回開催の保護者懇談会があります。園から子どもの成長の報告や半年後の目標などを提示したり、製作物の掲示を見てもらったり、園と保護者の保育内容共有や保護者同士の意見交換で相互理解を深めたりする機会になっています。担任は貴重な機会として、保護者が交流しやすいよう配慮しています。保育参加や看護師からの健康面の情報提供、保健だより、食育だよりなど子育てに役立つよう取り組んでいます。施設長は3歳児からの懇談会や保育参加をさらに呼びかけたいと考えています。		
	送迎時の対応では、さらに子どもの個別の様子を伝えられる工夫に努めています		
	登降園時の保護者に対しては、ていねいな送迎対応を心がけ信頼関係を築けるよう努めています。保護者の気持ちを聞き取り気がかりなことや相談を受けたことには面談を行い、必要な場合にはどろんこ会グループや子育て支援センターと連携し、アドバイスを受けながらサポートをしています。お迎え時には保護者の集中で対応を待たせたり対応不足になったりすることがあり、その時間に活動のスライド上映や画像展示など工夫しています。お迎え対応はシフト制で担任に限らないので、園では日中の個別の様子をどの職員でも伝えられる工夫を検討しています。		
非公表コメント	評価項目8の講評補足		

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
	評価	標準項目	
	あり	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
	あり	2. 園の行事に地域の人々の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評			
公表コメント	地域を知り地域の人とかかわることで子どもの成長が促されています		
	商店街ツアーを行い地域の公共施設やスーパーマーケット、個人商店などで話を聞き、いろいろな仕事を知り、職員以外の人々とかかわっています。勤労感謝の日になんだ製作物を近隣の公共機関に贈りました。公園へ散歩に出かけ、他園や地域の子どもの交流もあります。月1回公園で青空保育(出前保育)を開催し、絵本の読み聞かせや紙芝居などを地域の親子とともに楽しんでいます。また異世代間交流として高齢者施設を訪問していましたが、コロナ禍にありオンラインでの交流を続けています。系列園への移動保育で動物とも触れ合っています。		
	園のイベント参加の案内を行い、地域の子どもの体験をしています		
	園のイベントを広報しています。また園庭開放で未就園児の来園や、市の地域事業補助金での演劇鑑賞(三味線、人形劇、紙芝居、科学実験ショーなど)では、地域の子どもの近隣園にも開催案内しています。実習生の受け入れや中学・高校との交流など職員以外の人とも触れ合っています。保全林を守る活動にも参加し、ともに地域の自然に関心を寄せています。園が少し奥まったところにあり、地域に見えにくい現状ですが、コロナ禍で実施できなかったことが少しずつ実施できるようになってきており、さらに地域との交流を進められるよう期待します。		
非公表コメント	評価項目9の講評補足		

調査対象	保育園を利用している82世帯を対象に調査を実施しました。在園児は89名で、兄弟姉妹が同園に通う世帯は年齢の一番低い子どもについて回答してもらいました。
調査方法	アンケート調査は無記名方式で、配付は施設を通じて利用者へ手渡し、回収は保護者から直接評価機関へ郵送する方法によりました。調査結果は選択回答だけでなく、記述式の回答についても匿名性に配慮してまとめ、保育園に報告しました。
利用者総数	89
利用者家族総数(世帯)	82
共通評価項目による調査対象者数	82
共通評価項目による調査の有効回答者数	50
利用者家族総数に対する回答者割合(%)	61.0%

利用者調査全体のコメント

保育園に対する総合的な感想は、「大変満足」が23人(46%)、「満足」が20人(40%)で「満足」以上の回答は合計43人(86%)でした。

自由意見には、「子どもの自主性を尊重しているところが良いです」「自然が多い環境でのびのびと保育をしてくれませう」「大らかで柔軟性が高いと思います。どんな子ども、家庭でものびのびと過ごせる場所だと思います」「子どもの気持ちを第一に、保護者のこともきちんと考えてくださり、日頃から感謝の気持ちでいっぱいです」「年下の子どものお世話や、年上の子どもとの交流もよくできていると思います」「園の雰囲気がとても良いです」「子どもたちがみな活発で、自発的に思います」など園への信頼と感謝を寄せる声が多く見られました。

項目別に見ますと、「保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか」で100.0%、「保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか」で98.0%、「保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか」で96.0%の保護者がそれぞれ「はい」と回答し、とても満足度が高い様子が見取れます。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	49	1	0	0
「はい」が98.0%、「どちらともいえない」が2.0%でした。 自由意見には、「日々の成長を見ていると、園での生活で覚えていることが多く見受けられます」「ダイナミックな遊び、外遊びをさせてもらえるので、大変ありがたいです」「自然の中でどろんこになりながら、遊べる環境がとても良いです」「保育園に入ってから言葉も増え、できることがとても多くなりました」「自然や動物と触れ合う機会が多く、心身ともに成長できる場が多いです」「外遊びが多く、体が丈夫に育ちます」などの声がありました。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	50	0	0	0
「はい」が100.0%でした。 自由意見には、「固定遊具や玩具がさまざまあり、自分の興味のあるもので遊べることや、活動も選択できるところが良いです」「どろんこ遊びや、歌、体操など、とても関心を持って行っているようです」「自由な面もあり、のびのびとしていいです」「室内遊びでも(絵の具やお絵描きなど)、いろいろな遊び方を考えてくださっています」「好奇心を摘み取らずに、やらせてくれます」「一人ひとりの意見・興味に合った遊びに取り組むことができ、のびのびと過ごせています」などの声がありました。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	44	5	1	0
「はい」が88.0%、「どちらともいえない」が10.0%、「いいえ」が2.0%でした。 自由意見には、「バランスも良く、おかわりもあり、満足です」「甘みがおさえられていて、安心できます」「食事はもちろん、おやつも既製品ではなく、手作りのもので工夫をされているので、満足です！食育も非常に良いです」「バイキング形式で、子ども自身が食に対し興味・関心が持てる環境は素晴らしいと思います」「たくさん食べているので、とてもおいしいのだと思います」などの声がありました。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	48	2	0	0
<p>「はい」が96.0%、「どちらともいえない」が4.0%でした。 自由意見には、「戸外遊びや散歩が多く、町の探索、社会とのかかわりも多い方だと思います」「外遊びはもちろん、畑でとれた野菜を給食に盛りこんだり、商店街ツアーなど、楽しそうな企画がたくさんあっていいと思います」「商店街ツアーや他の園でやぎと触れあえるなど、いろいろな機会を体験させてくださっています」などの声がありました。</p>				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	36	8	0	6
<p>「はい」が72.0%、「どちらともいえない」が16.0%、「無回答・非該当」が12.0%でした。 自由意見には、「サービスデスクや電話対応など、大変使いやすくなって感謝しています」「柔軟に受け入れをしてくださっています」「延長保育の時間が長いので、急な仕事が入っても対応してもらえ点が、大変助かっています」「とても柔軟で、助けられています」「利用をしたことがないため、わかりません」などの声がありました。</p>				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	27	12	11	0
<p>「はい」が54.0%、「どちらともいえない」が24.0%、「いいえ」が22.0%でした。 自由意見には、「不審者対応については、訓練が行われています」「子どもたちの安全と成長を本当によく考えているカリキュラムに、満足しています」「取られていないとは思わないですが、十分かどうかよくわかりません」などの声がありました。 その一方で、「夕方の送迎時、保育士の先生の人数が減った時間で、園内の安全対策が不十分だと感じる場面がありました」という意見もありました。</p>				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	38	8	4	0
<p>「はい」が76.0%、「どちらともいえない」が16.0%、「いいえ」が8.0%でした。 自由意見には、「連絡が直前になることがあります。詳細をもう少し早めに知らせてほしいです」などの声がありました。</p>				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	36	10	4	0
<p>「はい」が72.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が8.0%でした。 自由意見には、「担任の先生以外にも、話せています」「連絡帳にも、詳しく書いてくれています」「先生方が子どもや保護者に、真摯に向き合ってくださっていると思います」「全ての職員が大らかで、子どもと接している様子も信頼できますし、保護者への対応もていねいです」「子ども自身、信頼できる先生が何人かできたようで、安心して預けられます」「信頼のできる場所だと家族でいつも話をしています」などの声がありました。</p>				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	12	2	0
<p>「はい」が72.0%、「どちらともいえない」が24.0%、「いいえ」が4.0%でした。 自由意見には、「はだし保育なのと、どろあそびをするので、多少仕方がないかと思います」などの声がありました。</p>				
10. 職員の接遇・態度は適切か	37	10	2	1
<p>「はい」が74.0%、「どちらともいえない」が20.0%、「いいえ」が4.0%、「無回答・非該当」が2.0%でした。 自由意見には、「保育士の皆さんはいつもお忙しいのにもかかわらず、保護者にも温かくしてくださり、とても感謝しています」「保護者に対し、明るく元気に接する方が多いと思います」「保育士さんたちも皆さん明るくて、お話ししやすい方ばかりです」「とても親切な先生が多く、安心して預けることができます」「他のクラスの先生も子どもの名前をちゃんと把握し、様子を教えてくださいます」などの声がありました。</p>				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	39	7	4	0
「はい」が78.0%、「どちらともいえない」が14.0%、「いいえ」が8.0%でした。 自由意見には、「けがは教えてくれます。発熱時の連絡もあります」などの声がありました。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	17	3	3
「はい」が54.0%、「どちらともいえない」が34.0%、「いいえ」が6.0%、「無回答・非該当」が6.0%でした。 自由意見には、「お任せしています」「物の取り合いになった時に、おだやかに間に入って、声を聞いています」「わかりません」などの声がありました。 その一方で、「状況説明が不足しています」「子ども同士のけんかに、先生が気がつかない時もある気がします」という意見もありました。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	40	9	1	0
「はい」が80.0%、「どちらともいえない」が18.0%、「いいえ」が2.0%でした。 自由意見には、「かわいくなって、愛情をもって接してくださっています」「本当に些細なことでも、子どもの気持ちになって報告をしてくれて、いつも感謝しています」「子どもをちゃんと見てくださって、対応をしてくださり、嬉しい限りです」「子どもの気持ちに寄り添っていただいていると思います」などの声がありました。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	34	12	2	2
「はい」が68.0%、「どちらともいえない」が24.0%、「いいえ」が4.0%、「無回答・非該当」が4.0%でした。 自由意見には、「まだその状況になってないので、わかりません」などの声がありました。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	37	8	4	1
「はい」が74.0%、「どちらともいえない」が16.0%、「いいえ」が8.0%、「無回答・非該当」が2.0%でした。 自由意見には、「保育内容は、基本的に保育所保育指針と法人理念に基づいて、組み立てられており、地域の特色や保育士のねらいも活かされています」「連絡帳に、わかりやすく書いてくださっています」などの声がありました。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	34	9	2	5
「はい」が68.0%、「どちらともいえない」が18.0%、「いいえ」が4.0%、「無回答・非該当」が10.0%でした。 自由意見には、「以前、アンケートして下さった意見をもとに、少しずつですが対応をしてくださっていると思います」「不満に思ったことがありません」などの声がありました。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	21	15	10	4
「はい」が42.0%、「どちらともいえない」が30.0%、「いいえ」が20.0%、「無回答・非該当」が8.0%でした。 自由意見には、「質問に該当する状況になったことがないのでわかりませんが、窓口が園外にあることは知っています」「」などの声がありました。 その一方で、「知りませんでした」という意見もありました。				